

巻 頭 言

大田区中国帰国者センターを運営する一般社団法人OCNetは、昨年10月に設立20周年を迎えました。OCNetはこれを祝い、関係者の皆さまに感謝の意を表する設立20周年記念パーティー感謝の夕べを12月15日開催いたしました。90名を超える関係者の出席があり、あでやかな舞いを見せていただいた夕陽紅グループの皆さまをはじめ、多くの中国帰国者の皆さまにもご出席いただき、ありがとうございました。

パーティーの冒頭、私はOCNetの代表理事として次のようにあいさつしました。

「(前略)1992年10月の設立以来、本当に多くの人々との関わり合いのなかで、またご支援とご理解を得るなかでOCNetは活動を続けてまいりました。延べ500名を超えるボランティア会員、3000名を超える日本語教室の利用者、さらに50ヶ国以上にわたる、恐らく1500名以上の相談者、そして大田区をはじめとする多くの皆さまのご支援・ご理解により、ここまでくることができたと実感しています。

(中略)当初私どもが掲げた目標・地域の外国籍住民とともに考える、これに変更はありません。設立から20年を経過しても、外国籍住民・移住者の生活や権利状況は残念ながらそれほど好転していないと云わざるを得ません。地域のなかで、多文化共生の内実を作っていくのがひきつづき私どもの課題と思います。今後とも皆さまのご支援をお願いして終わりといたします。ありがとうございました」。

パーティーに先立ち、多くの方からお祝いのメッセージをいただきました。また、パーティーの中では松原忠義大田区長から丁寧なお祝いのメッセージを、そしてさつき法律事務所大貫憲介弁護士からもお祝いのごことともに励ましのメッセージをいただきました。

これらを通して、私どもはOCNetおよび大田区中国帰国者センターに寄せられる皆さまの期待、想いを感じ取ることができました。これらに応えるために、普段の互いのつながりを大事にしながら、いままで以上に力を尽くしていきたいと思えます。換言しますと、多文化共生社会の内実を作るためにいまなお見られる社会の差別や偏見にも目を背けることなく、活動を続けていくとの謂いになるかとも思えます。改めて皆さまのご理解、ご協力をお願いする次第です。

大田区中国帰国者センター代表 鈴木昭彦

活 動 報 告

■秋季料理講習会

●11月19日(月)10:00~15:00

●大田区民センター

帰国者の人たちが、中国料理を主とする家庭メニューの中に、栄養士の指導を受けて、手軽にできる日本料理を体験する料理講習会が、大田区民センター調理室を会場に開催されました。

これは、具体的にはお正月に使える日本料理づくりに挑戦し、その体験をとおして文化的な交流をすることもでもあります。



◎肩寄せて、押し寿司づくり



◎歌唱後の皆さんの朗らかな顔

参加者は、帰国者、講師、スタッフなどを含め、合計35名に上りました。

調理後は、栄養士からの講評を受け、またお互いに感想を語り合いながら食事を楽しみました。

そして最後は、「北国の春」「草原情歌」「ふるさと」などを全員で斉唱しましたが、「とても心が晴れやかになった」とのうれしい感想もありました。

正月料理のレパトリーを増やすことも大事でしたが、帰国者の新しい参加者がいたり、久しぶりの参加者があつたりで、とても有意義な時間でした。

(藤田義雄)

■中国帰国者まつり

●11月25日(日) 11:00～16:30

●江東区総合区民センター

毎年恒例の「中国帰国者まつり」が、今年は江東区総合区民センターを会場に、参加者300人余り、8グループ・団体、祭り参加プログラム数40にて盛大に行われました。時間も11時から16時30分までという長丁場でしたが、後から後からと続くステージの出し物に、皆さん十分に堪能していました。

まず、プログラムの第1部として主催者挨拶、中国帰国者代表挨拶、弁護団代表挨拶、支援団体代表挨拶などが続きました。そのなかでは、厳しい現況のなかにあっても前向きに考えること、「配偶者問題の改善」という喫緊の課題にも、署名活動などを通じて立ち向かうことを確認するものでした。

引き続き第2部では、乾杯の後、文化行事として、多士済済の皆さんによる華やかなステージが繰り広げられました。

なかでも大田区帰国者の宮崎慶文さんは、総監督を務め、進行を指揮しながら自らもソーラン節などの踊りに参加し、池田澄江さんとの二重唱までこなすという、八面六臂の活躍を見せていました。



◎池田澄江さんと宮崎慶文さんの二重唱

また、同じく大田区から参加した大田区帰国者夕陽紅代表隊が5回もステージを務め、衣装替えだけでも大変なところ、プログラムの最後まで踊りきったのは、まさに圧巻でした。



◎華麗なステージの夕陽紅の皆さん

そのほかの大田区在住の帰国者の方々も数多く参加していて、それぞれ旧知の方々と語り合う姿があちらこちらで見受けられました。(藤田義雄)

通信員便り③

『共生共走!ルーマラソン』について

宗像由美子(事務局・品川在住)

私はセンター勤務以外に、「共生共走!ルーマラソン」の活動を行っています。それは「だれもがともに」生きて行くことを目的とし、障害者、外国人、いろいろな民族等が交流する場として行うイベントです。

マラソンは、速くなくてもチームの誰か一人がコースにいれば良いので、歩いたり、車椅子や仮装で走る人もいます。

今年、私は、地域との交流もめざす帰国者の「夕陽紅」の方達に舞台に出ることをお願いしました。皆さん素敵な衣装で中国の地方の踊り、日本の民謡など踊ってくださいます。ハモニカ、二胡、歌の出演をしてくださる方もいます。

震災の後、人々の絆が大切なことが大きく心に入っています。いろいろな人と交流したい方、体を動かしたい方、来年も行いますので参加していただけたら、嬉しいです。

発行及び問い合わせ先：大田区中国帰国者センター

(運営：OCNet)

電話：03-6424-9102 (月・水・金 13:00～17:00)